

教職の魅力向上への本学の取組

野田 敦敬

教員の働き方改革、教職調整額の大幅な引き上げ、教員採用試験の日程の前倒しなど、教職の魅力向上に向けて、様々な施策が打たれています。しかし、小学校教員採用試験の倍率は多くの自治体で毎年過去最低を記録しています。国立大学の教員養成課程の入試倍率も思うように伸びません。また、社会からの過剰な要求で、教師は疲弊し、学生は教職を目指すことを諦める傾向にあります。このような状況である今こそ、教職の魅力向上させるには、学生が主体的にイベントを計画し、子どもと触れ合う手応えを感じる機会をつくるとともに、社会を挙げて教職の魅力を共創し、教職志願者を増やすことが教員の質の向上につながるのではないのでしょうか。

◆多様な体験を通して育成する「人間力」

この数年で、教員養成大学のいくつかは、創基 150 周年を迎えます。本学は、明治6年(1873年)に前身である「愛知県養成学校」の設立から数え、昨年、令和5年(2023年)に創基 150 周年を迎えました。

明治の先人たちは、教育を新しい国づくりの礎と考え、近代的な学校制度を整えました。その後、大正、昭和、平成、令和と時代は移り、世界は加速度的に変化し続けていますが、国づくりの根幹は、今も変わらず人づくりです。他方、新しい時代を切り拓くには、高邁な理想を共に抱く仲間、柔軟で斬新なアイデア、協働してやり遂げる強い意志が必要です。また、これからは、知識を得ることより、活用力を身に付けることが重要な社会になります。この社会の変化に対応するこれからの学校教育では、探究的学習が重要となり、小中学校の「総合的な学習の時間」や高等学校の「総合的な探究の時間」が核になっていくと思います。私は、生活科や総合的学習を専門としており、これまで参観した多くの授業を通して、多くの教師に出会ってきました。優れた授業を展開された先生方は、人間力に溢れた方々でした。教員養成における基礎は、この「人間力」を培うことだと思います。それには、多様な体験をし、多様な方々と触れ合うことが不可欠であると考えます。

本学は、創基 150 周年を越え、新たなコンセプトとして「新しい形の教員養成に挑戦し教職の魅力を高め、未来につなぐ！」を掲げました。そのために地域と共に教員、教育支援専門職を養成する新設科目「地域協働教育体験活動」を令和4年度に導入し、以後その充実を図っています。

この科目は、学内外で多様な方々と連携・協働して実施する教育体験をもとにして学んだことを、子どもにどう還元できるかを探究的に追究し、教職及び教育を支える専門職等に必要となる資質や能力について多角的に考えることを目的としています。昨年度は、レクリエーション協会、地域の和菓子屋、歴史博物館などと連携していくつかの授業を実施し、手応えを感じました。今年度は、地域の学校や自治体、スポーツクラブチーム、電気・エネルギー企業、国際交流協会、放課後児童クラブや NPO 法人などとの連携を質量とも一層充実させています。

◆教職の魅力共創

これまで培ってきた教員養成の「知の拠点」としての役割を果たし続け未来へとつなぐために、令和3年3月に「未来共創プラン」(愛知教育大学中長期ビジョン・3つの目標・9つの戦略)を策定し、学長就任時にキャッチ

フレーズとして掲げた「子どもの声が聞こえるキャンパス、地域から頼られる大学」の実現に向けて、取り組んでいるところです。例えば、「未来共創プラン」の戦略1としている「子どもキャンパスプロジェクト」では、学生や教職員で企画した体験型のイベントやシンポジウムを年間を通じて開催していますが、そこに参加してくれた子どもは、昨年度、一昨年度と共に年間 3000人を超えています。「子どもキャンパスプロジェクト」は、イベント的に年2回程度実施する「あつまれ！子どもキャンパス」と、単発的に行うものがあります。そのねらいは以下の通りです。

- 参加した子どもが活動対象への関心を高める。
- 参加した子どもや保護者等が本学の存在を認識する。
- 学生にとって、自分たちで企画し主体的に子どもと触れ合う機会となり、教職及びそれを支える専門職に就くことへの意欲を高める機会となる。
- 教師不足が社会問題化する中、将来、教師を目指そうという子どもが増えることが期待できる。
- 学生と教職員、本学と地域が連携・協働する機会となる。

令和6年11月23日(土)に学生や教職員、附属高校の生徒等で32の企画による第6回「あつまれ！子どもキャンパス」を実施しました。事前に Web で申し込む形式を取っていますが、募集初日でほぼ全ての企画の定員が埋まり盛況でした。

学生主体の企画は、春に募集し審査を経て必要な経費を補助しています。学生の企画力も育ち、一度参加した団体等は、前回の反省を生かし修正した企画を実施するといった主体的な活動となっています。

「あつまれ！子どもキャンパス」は、先に述べました「地域協働教育体験活動」の実践の場にもなっています。子どもの側には、「このお兄ちゃんお姉ちゃん、先生になるんだって。私もなってみようかな」と教職や教員養成大学を身近に感じるきっかけの場となります。これは、時間はかかることですが魅力の向上につながると思います。また、引率の保護者等に教員養成大学の取組を見ていただくことで、教職の魅力共創につなげていきたいと考えています。

(愛知教育大学学長)

愛知教育大学未来共創プラン関連サイト

ホームページ



リーフレット



「あつまれ！子どもキャンパス」



報告書 2023

